

第2部

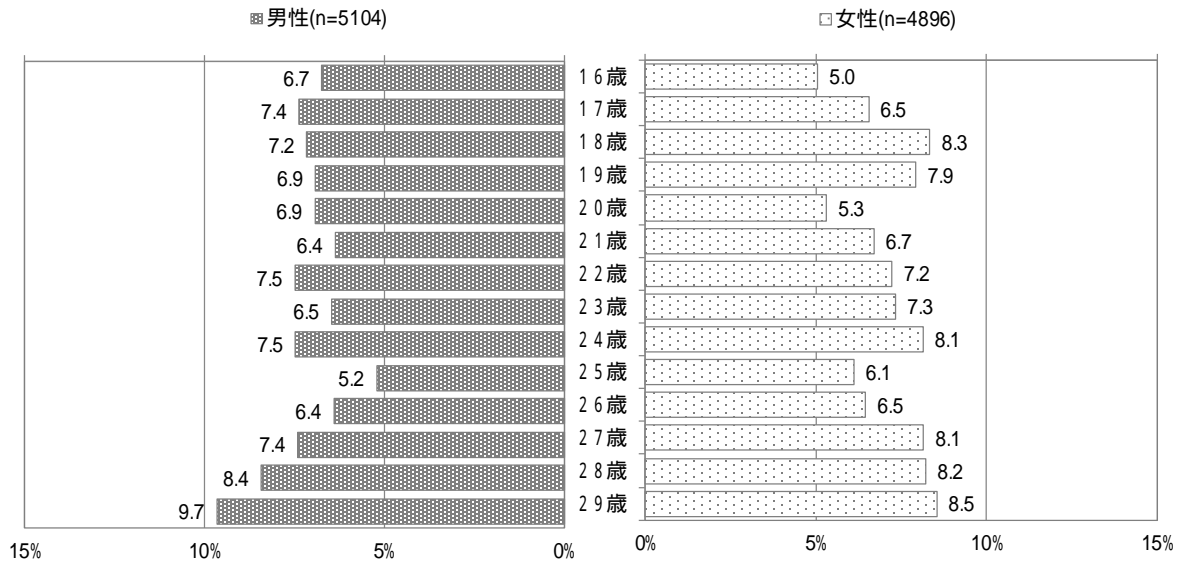
調査の結果

第2部 調査の結果

第1章 調査結果要約

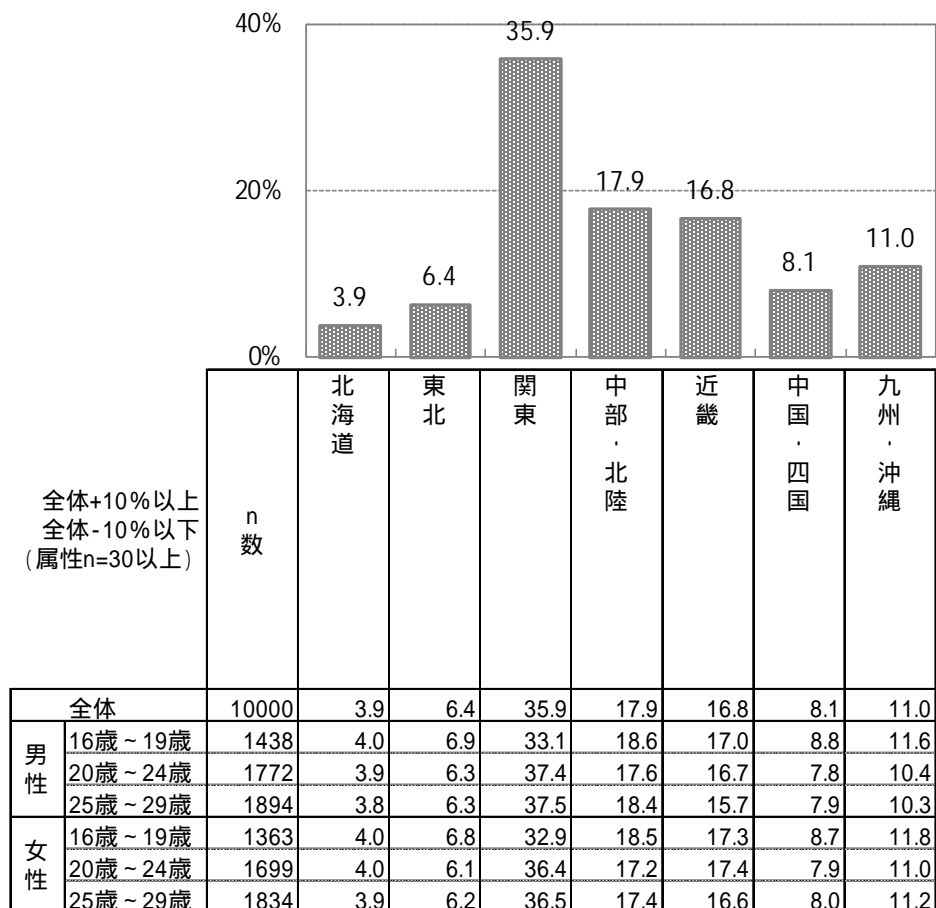
1 回答者の性別年齢

図1



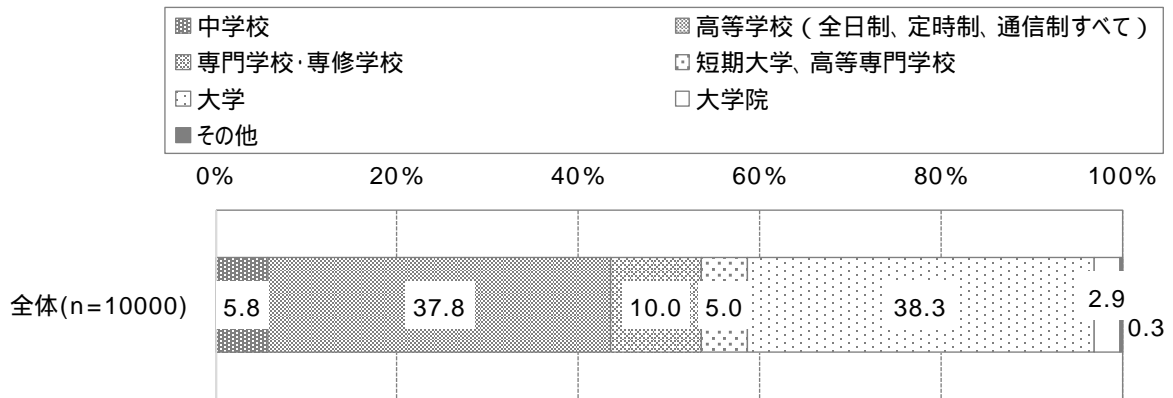
2 回答者の居住地

図2



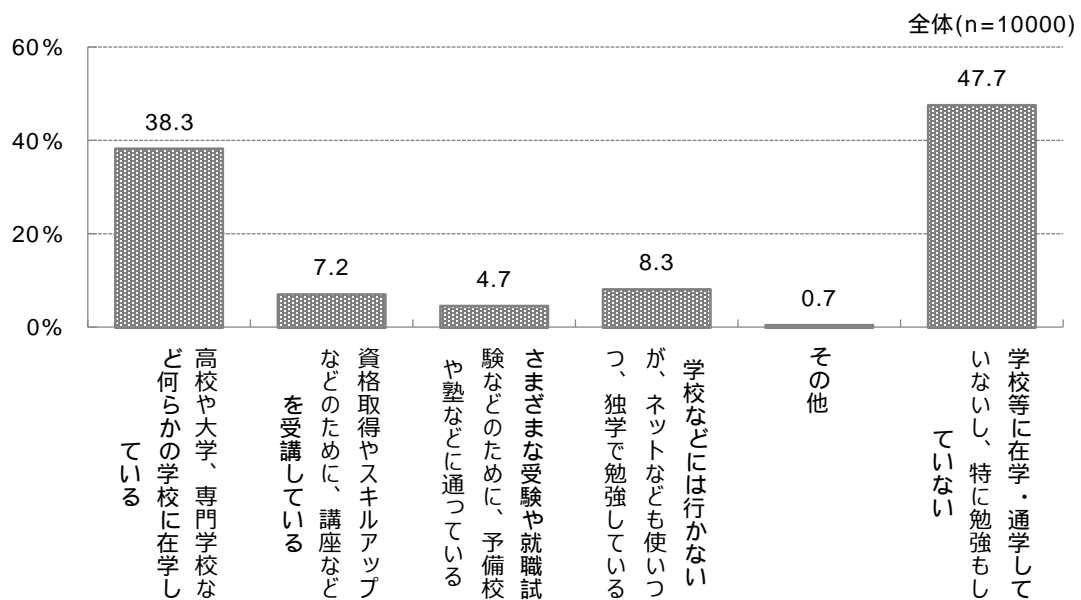
3 回答者の最終学歴

図3



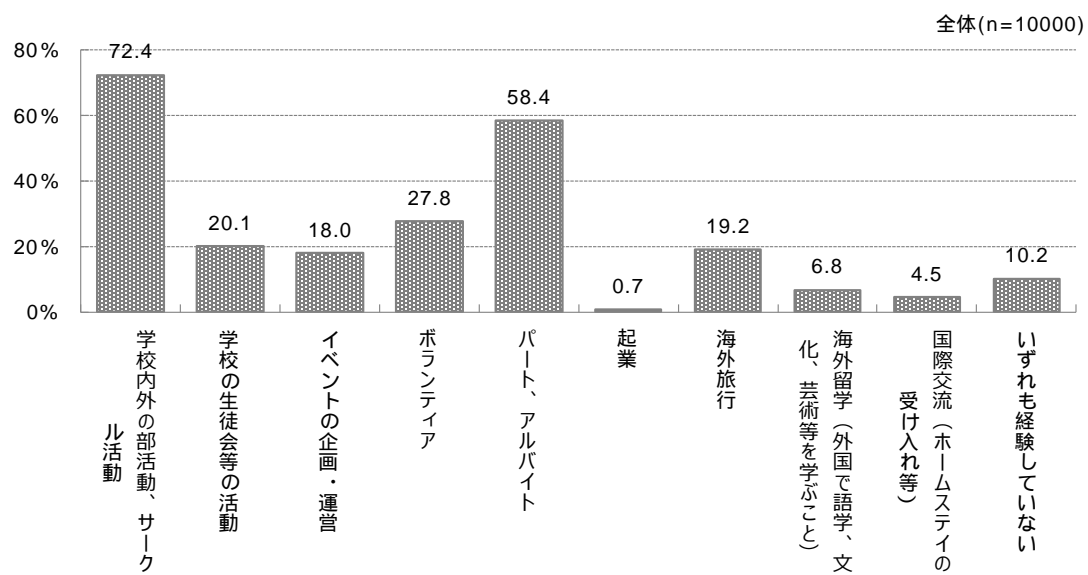
4 回答者の就学状況

図4



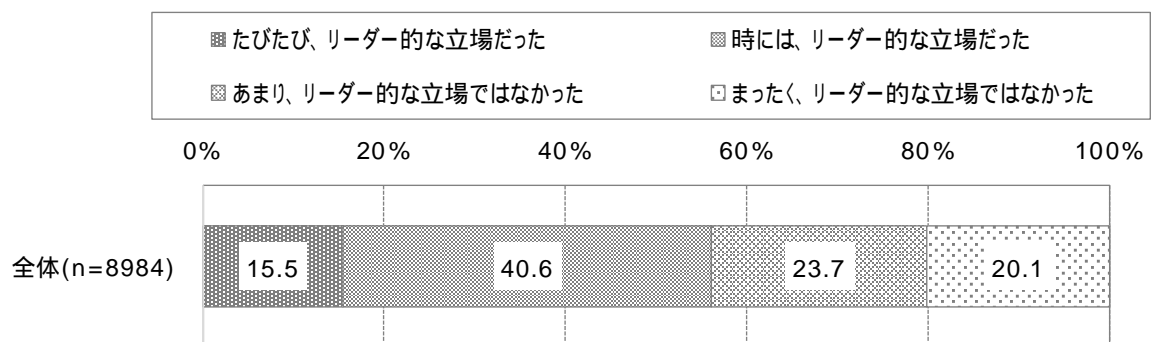
5 回答者の学生時代の活動

図 5



6 回答者のリーダー経験

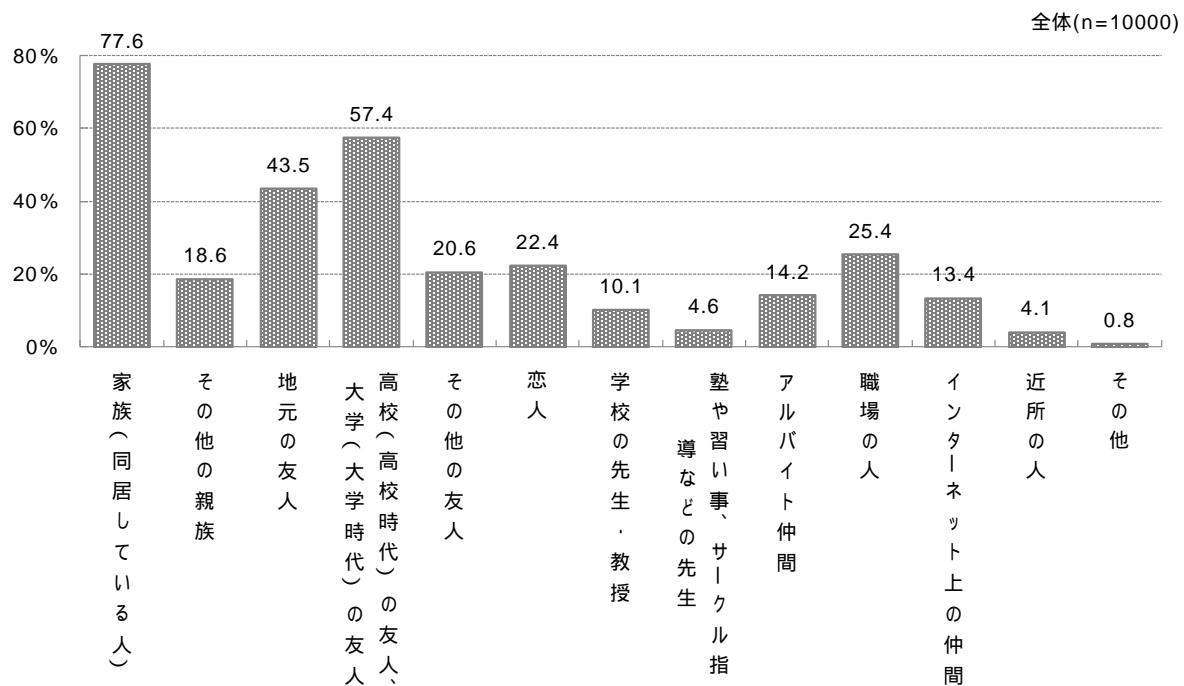
図 6



SQ6 で学生時代にいずれかの活動経験がある者のみ回答。

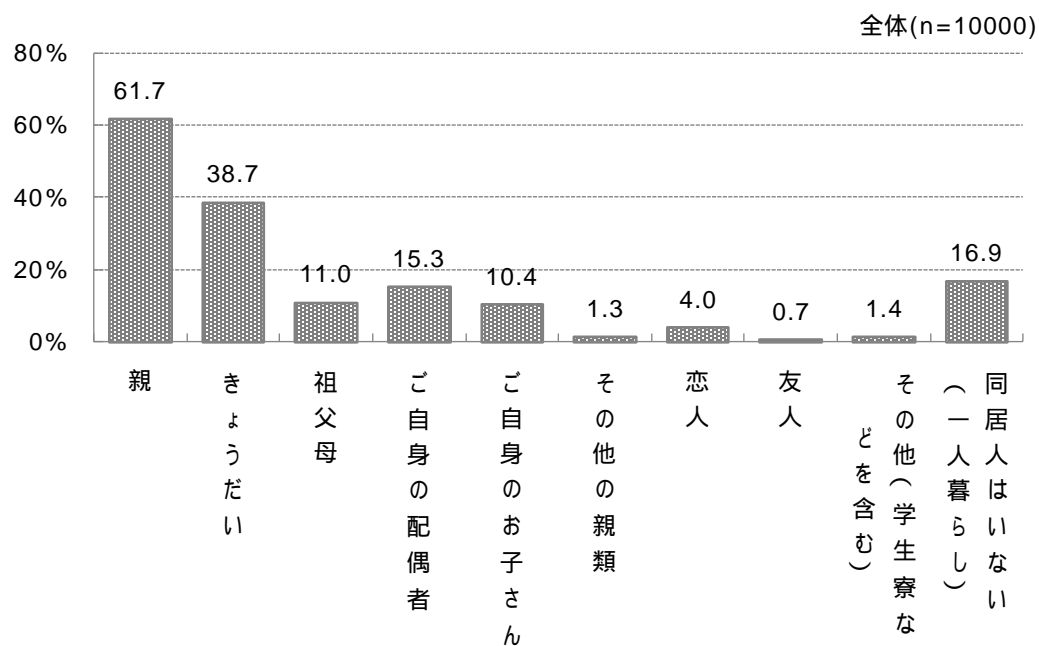
7 回答者の普段の接触相手

図7



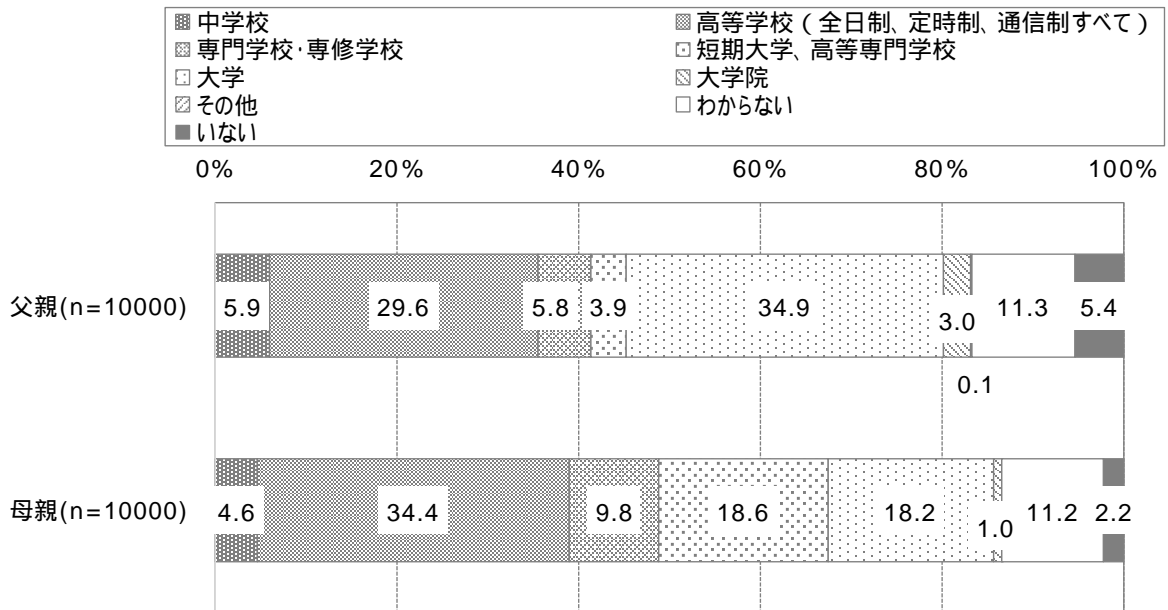
8 回答者の同居者

図8



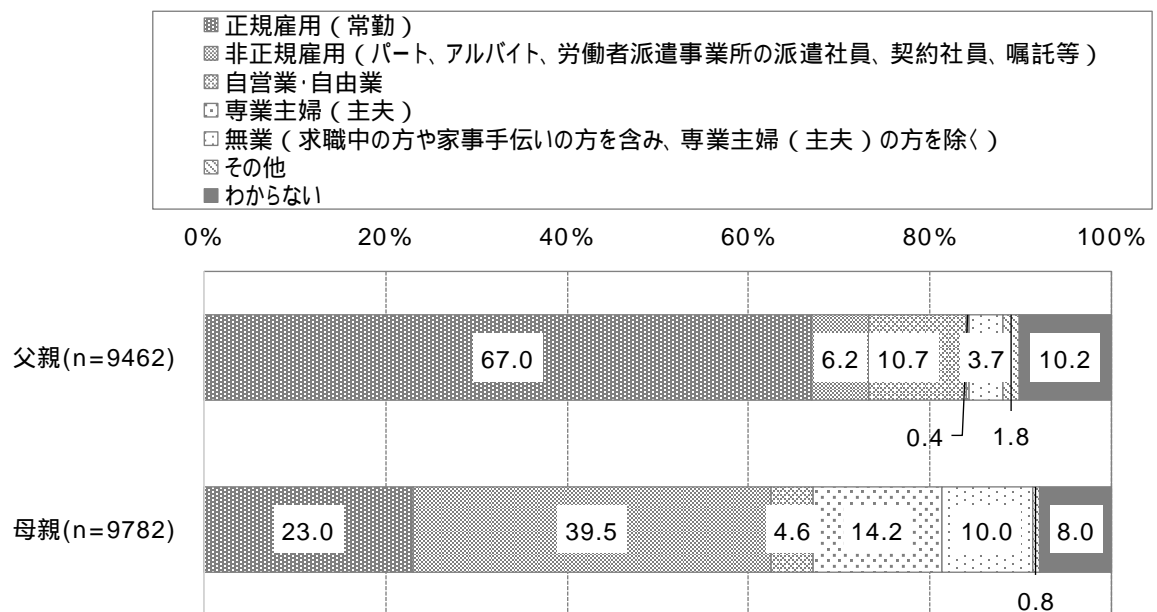
9 回答者の親の最終学歴

図9



10 回答者の親の雇用形態

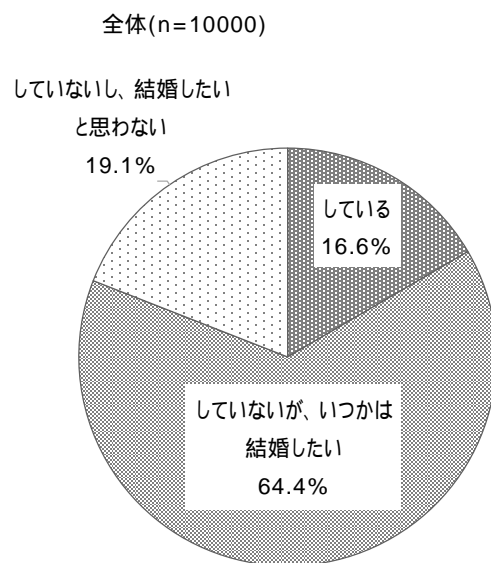
図10



SQ10で親がいる者のみ回答。

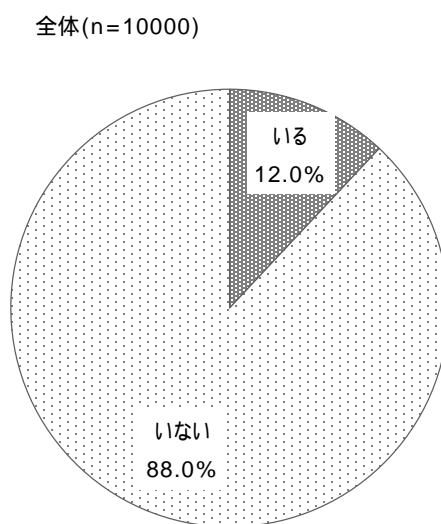
1 1 回答者の婚姻状況

図 1 1



1 2 回答者の子供の有無

図 1 2



1.3 仕事に対する意識

(1) 仕事の目的

仕事をする目的は、「収入を得るため」(84.6%)が最も高く、次いで「仕事を通して達成感や生きがいを得るため」(15.8%)、「自分の能力を発揮するため」(15.7%)、「働くのがあたりまえだから」(14.8%)、「人の役に立つため」(13.6%)と続く。

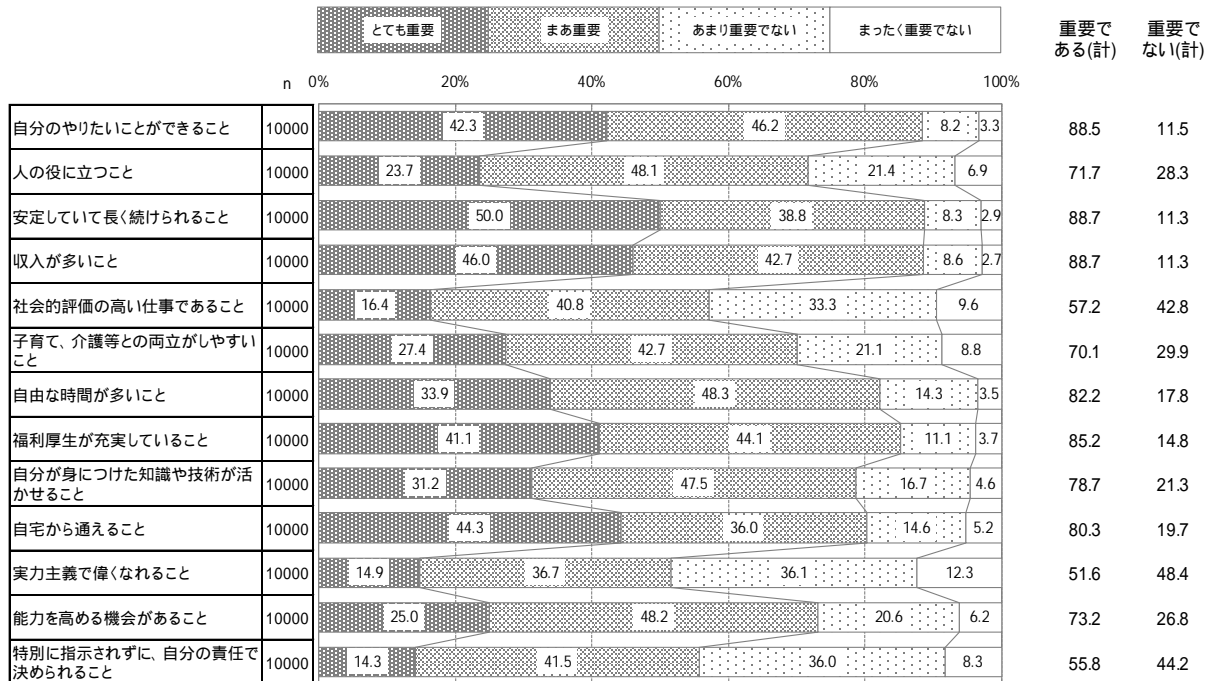
図1.3



(2) 仕事選択時の重要な観点

仕事選択時に重要な観点として、「重要である(計)(「とても重要」と「まあ重要」の合計)」が最も高いのは、「安定していて長く続けられること(88.7%)」、「収入が多いこと(88.7%)」。次いで「自分のやりたいことができること(88.5%)」、「福利厚生が充実していること(85.2%)」、「自由な時間が多いこと(82.2%)」、「自宅から通えること(80.3%)」と続く。

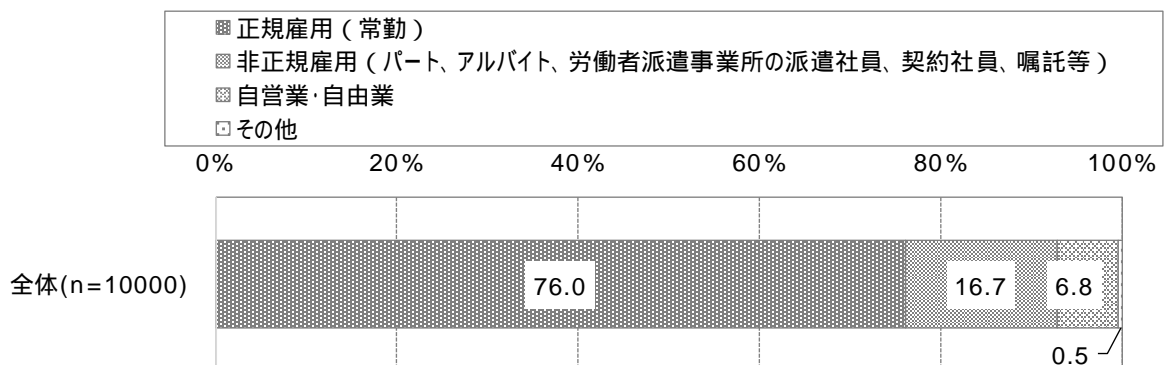
図 1 4



(3) 希望する雇用形態

希望する雇用形態は「正規雇用(常勤)」(76.0%)が最も高く、次いで「非正規雇用(パート、アルバイト、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託等)」(16.7%)、「自営業・自由業」(6.8%)、と続く。

図 1 5

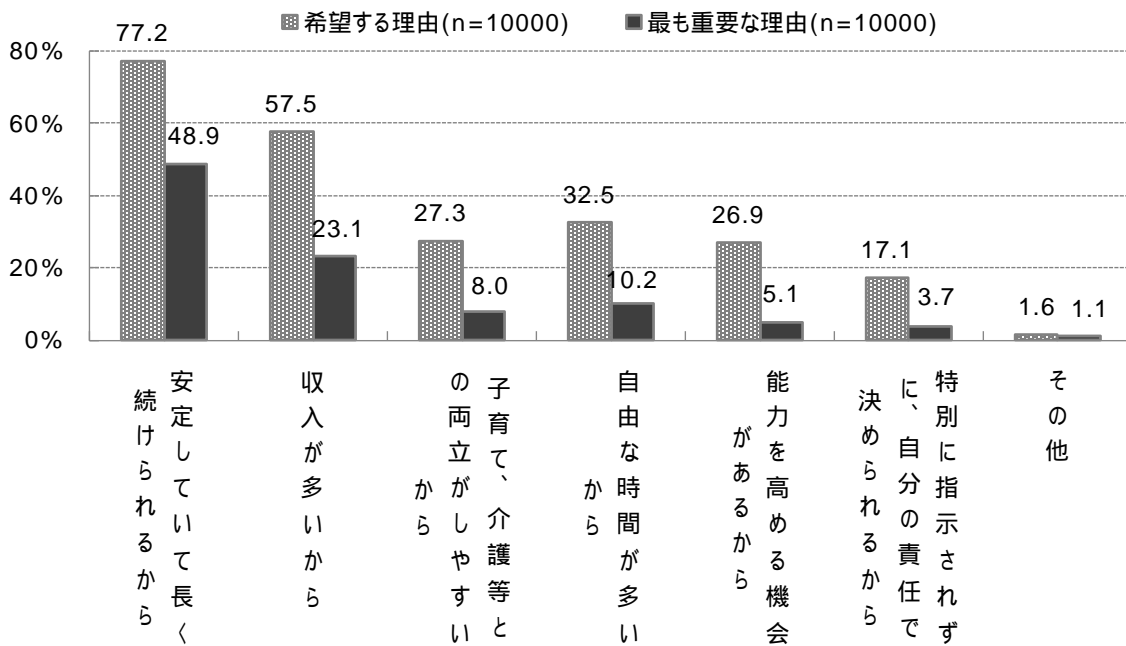


(4) 希望する雇用形態の選択理由

希望する雇用形態の選択理由として最も高いのは、「安定していて長く続けられるから」(77.2%)。次いで「収入が多いから」(57.5%)、「自由な時間が多いから」(32.5%)、「子育て、介護等との両立がしやすいから」(27.3%)、「能力を高める機会があるから」(26.9%)と続く。

希望する雇用形態の最も重要な理由として最も高いのは、「安定していて長く続けられるから」(48.9%)。次いで「収入が多いから」(23.1%)、「自由な時間が多いから」(10.2%)、「子育て、介護等との両立がしやすいから」(8.0%)、「能力を高める機会があるから」(5.1%)と続く。

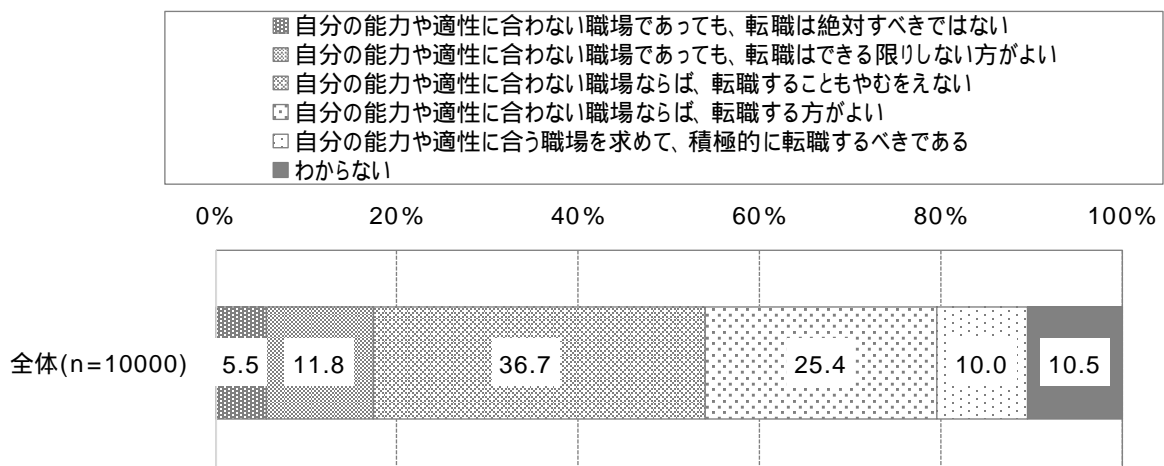
図16



(5) 転職に対する意識

転職に対する意識(「わからない」を除く)としては、「自分の能力や適性に合わない職場ならば、転職はできる限りしない方がよい」(36.7%)が最も高く、次いで「自分の能力や適性に合わない職場ならば、転職する方がよい」(25.4%)、「自分の能力や適性に合わない職場であっても、転職は絶対すべきではない」(11.8%)、「自分の能力や適性に合う職場を求めて、積極的に転職するべきである」(10.0%)と続く。

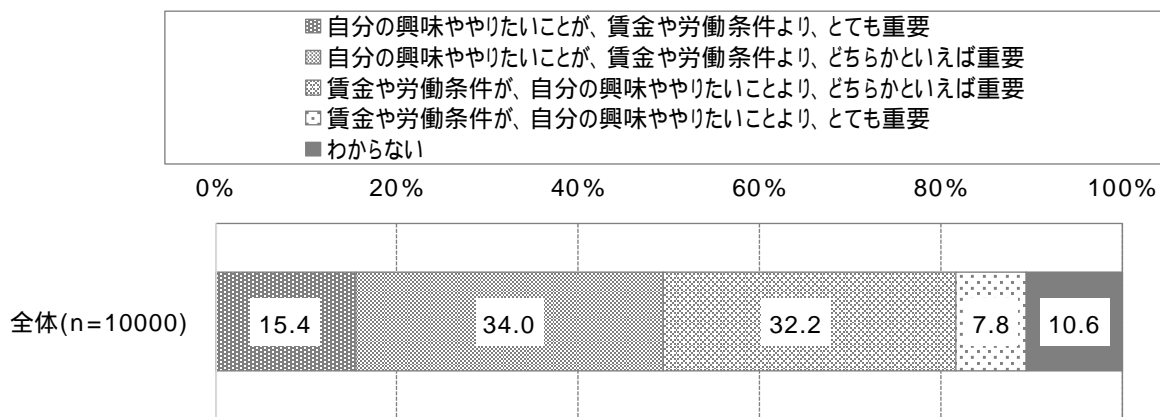
図17



(6) 転職時のワークライフバランス

転職時のワークライフバランスとしては、「自分の興味ややりたいことが、賃金や労働条件より、どちらかといえば重要」(34.0%)が最も高く、次いで「賃金や労働条件が、自分の興味ややりたいことより、どちらかといえば重要」(32.2%)、「自分の興味ややりたいことが、賃金や労働条件より、とても重要」(15.4%)と続く。

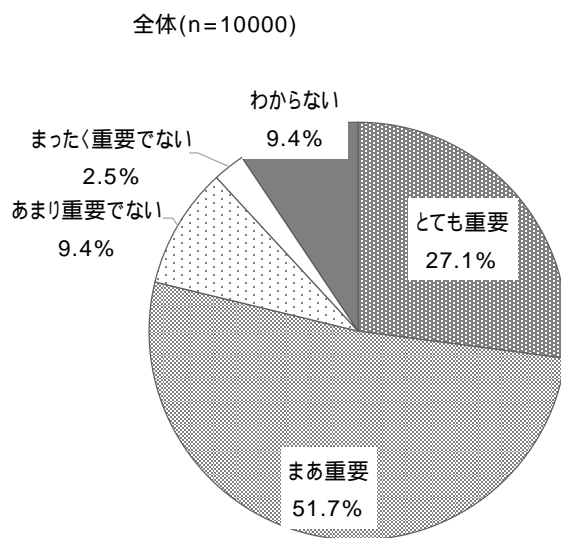
図18



(7) 転職時のスキルアップ重要度

転職時のスキルアップ重要度は、「まあ重要」(51.7%)が最も高く、次いで「とても重要」(27.1%)、「あまり重要でない」(9.4%)、「わからない」(9.4%)、「まったく重要でない」(2.5%)と続く。

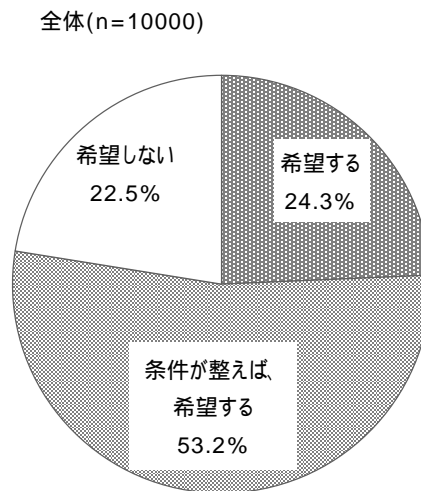
図19



(8) 学び継続の希望度

学び継続の希望度は、「条件が整えば、希望する」(53.2%)が最も高く、次いで「希望する」(24.3%)、「希望しない」(22.5%)と続く。

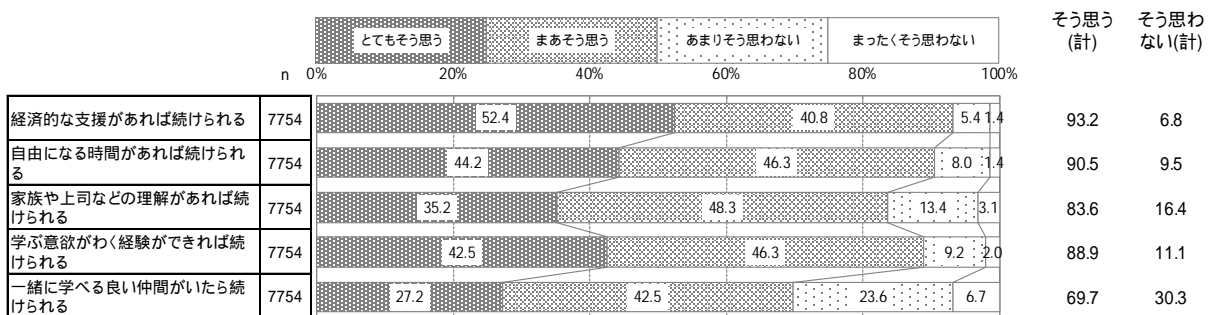
図 2 0



(9) 学び継続の条件

学び継続の条件としては、「そう思う(計)」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計)が最も高いのは、「経済的な支援があれば続けられる(93.2%)」。次いで「自由になる時間があれば続けられる(90.5%)」、「学ぶ意欲がわく経験ができれば続けられる(88.9%)」、「家族や上司などの理解があれば続けられる(83.6%)」、「一緒に学べる良い仲間がいたら続けられる(69.7%)」と続く。

図 2 1

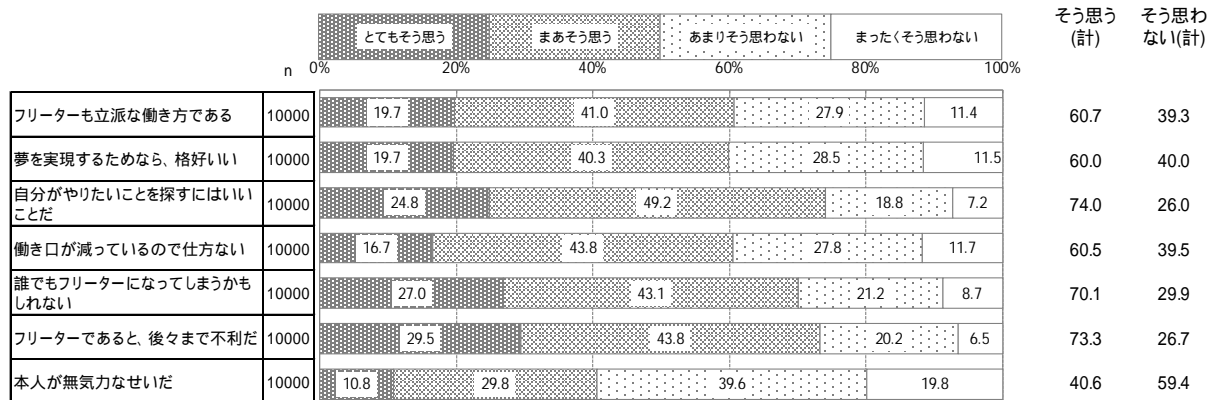


Q8 で学びの継続について「希望する」「条件が整えば、希望する」の選択者のみ回答。

(10) フリーターに対する意見

フリーターに対する意見としては、「**そう思う(計)**(「**とてもそう思う**」と「**まあそう思う**」の合計)」が最も高いのは、「**自分がやりたいことを探すにはいいことだ(74.0%)**」。次いで「**フリーターであると、後々まで不利だ(73.3%)**」、「**誰でもフリーターになってしまうかもしれない (70.1%)**」と続く。

図 2 2

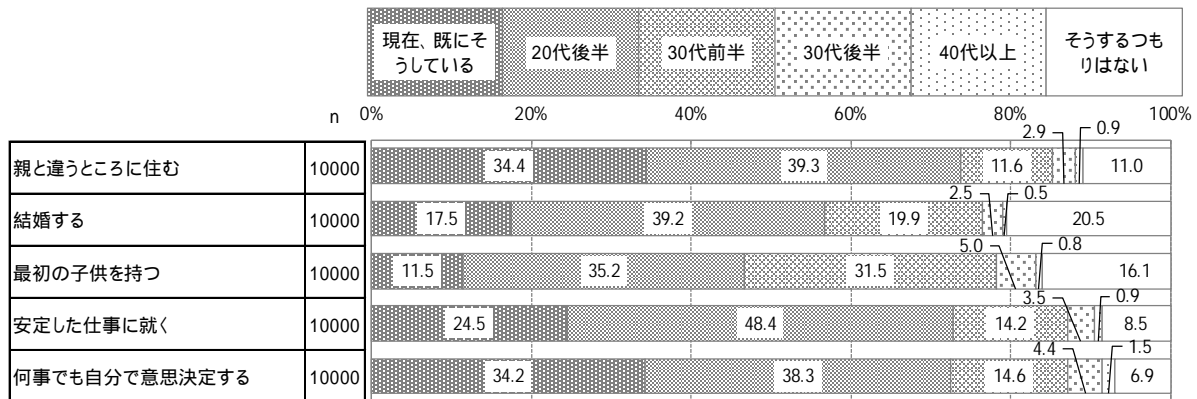


14 将来像

(1) 将来設計

将来設計については、“親と違うところに住む”は「20代後半」(39.3%)、次いで「現在、既にそうしている」(34.4%)、“結婚する”は「20代後半」(39.2%)、次いで「30代前半」(19.9%)、“最初の子供を持つ”は「20代後半」(35.2%)、次いで「30代前半」(31.5%)、“安定した仕事に就く”は「20代後半」(48.4%)、次いで「現在、既にそうしている」(24.5%)、“何事でも自分で意思決定する”は「20代後半」(38.3%)、次いで「現在、既にそうしている」(34.2%)と高い。一方、「そうするつもりはない」は“結婚する(20.5%)”が他項目に比べ高い。

図23

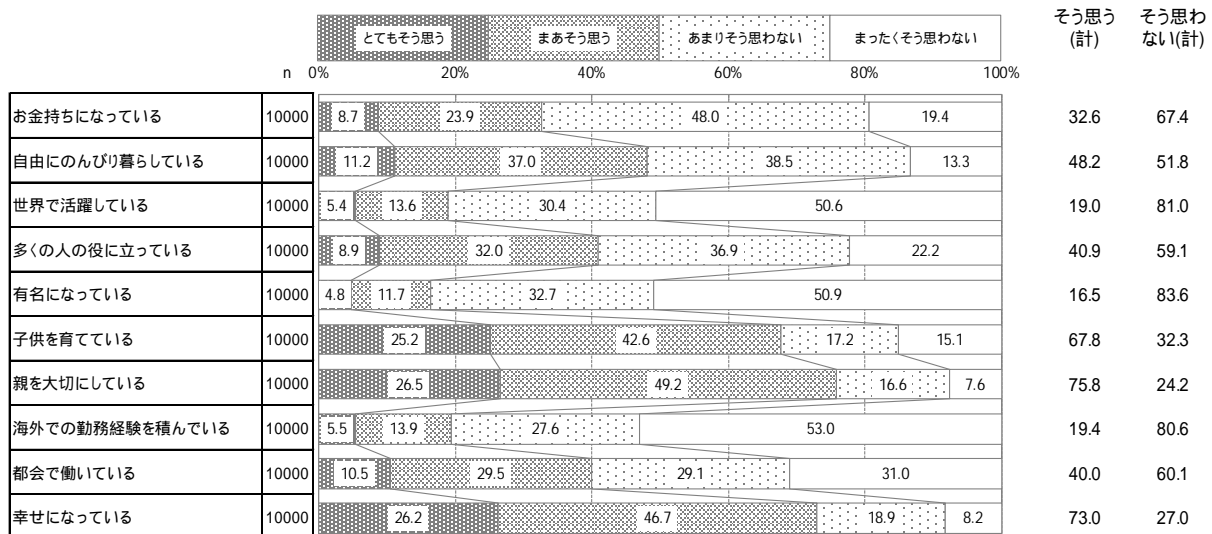


「結婚する」はSQ12で現在は結婚「していないが、いつかは結婚したい」の選択者のみ回答。SQ12で「している」は「現在、既にそうしている」、「していないし、結婚したいと思わない」は「そうするつもりはない」に加算。

(2) 40代の将来像

40代の将来像としては、「そう思う(計)」「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計)が最も高いのは、“親を大切にしている(75.8%)”。次いで“幸せになっている(73.0%)”、“子供を育てている(67.8%)”と続く。

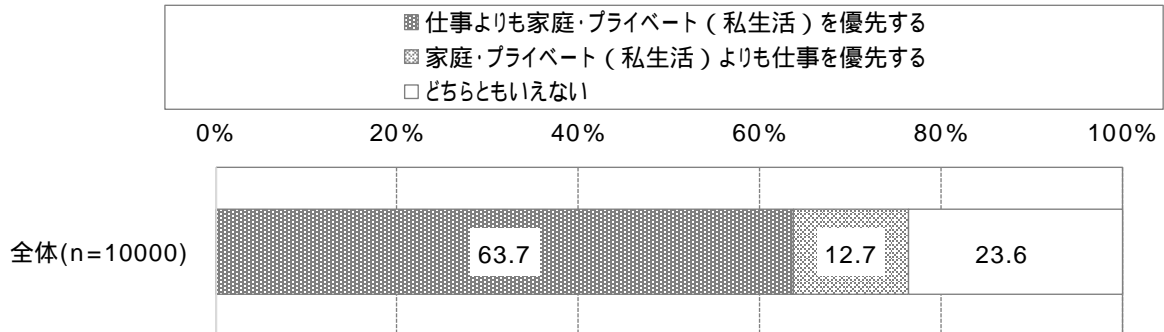
図24



(3) ワークライフバランス

ワークライフバランスとしては、「仕事よりも家庭・プライベート(私生活)を優先する」(63.7%)が最も高く、次いで「どちらともいえない」(23.6%)、「家庭・プライベート(私生活)よりも仕事を優先する」(12.7%)と続く。

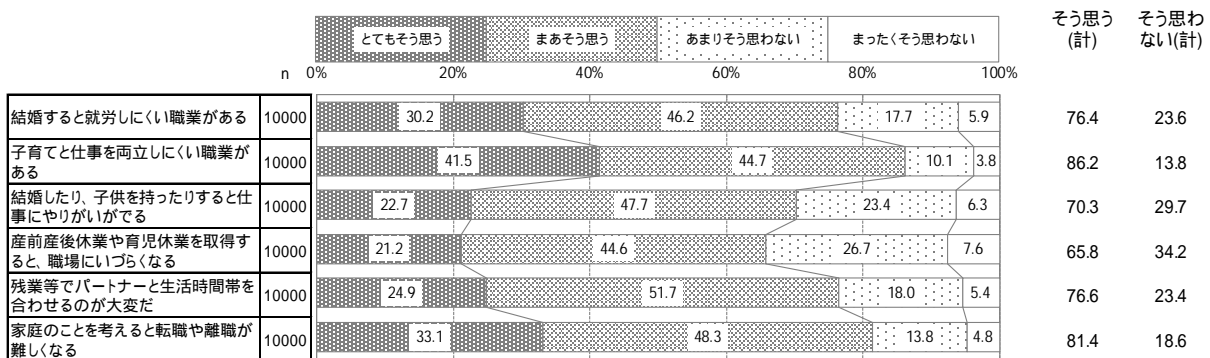
図 2 5



(4) 仕事と家庭との関係

仕事と家庭との関係としては、「そう思う(計)(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計)」が最も高いのは、「子育てと仕事を両立しにくい職業がある(86.2%)」。次いで「家庭のことを考えると転職や離職が難しくなる(81.4%)」、「残業等でパートナーと生活時間帯を合わせるのが大変だ(76.6%)」、「結婚すると就労しにくい職業がある(76.4%)」、「結婚したり、子供を持ったりすると仕事にやりがいができる(70.3%)」、「産前産後休業や育児休業を取得すると、職場にいづらくなる(65.8%)」と続く。

図 2 6

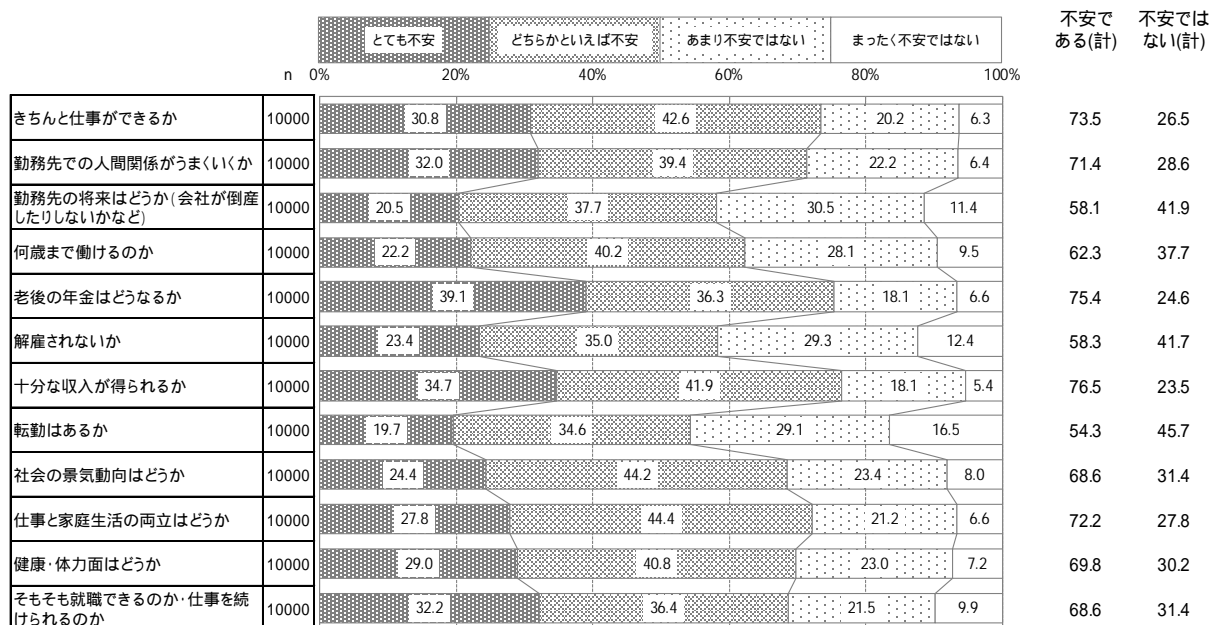


15 就労に対する不安

(1) 働くことへの不安

働くことへの不安としては、「不安である(計)(「とても不安」と「どちらかといえば不安」の合計)」が最も高いのは、「十分な収入が得られるか(76.5%)」。次いで「老後の年金はどうか(75.4%)」、「きちんと仕事ができるか(73.5%)」、「仕事と家庭生活の両立はどうか(72.2%)」、「勤務先での人間関係がうまくいくか(71.4%)」と続く。

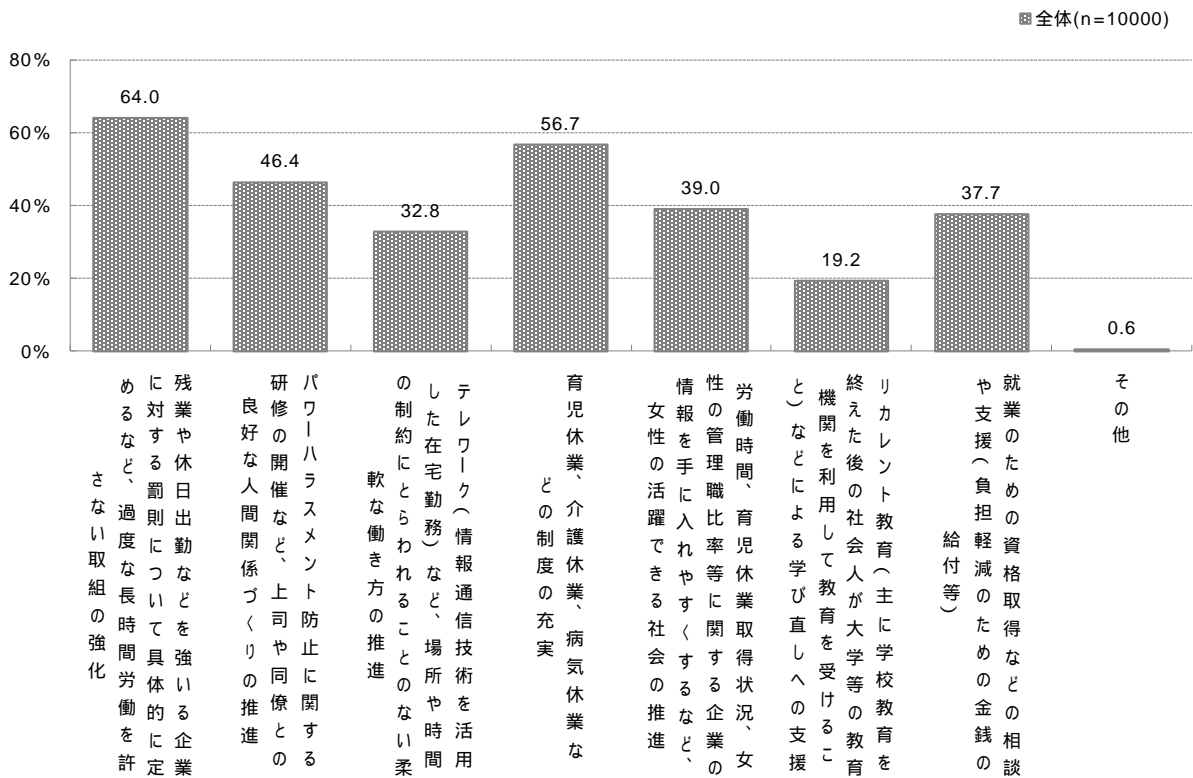
図27



(2) 不安解消のための取組

不安解消のための取組としては、「残業や休日出勤などを強いる企業に対する罰則について具体的に定めるなど、過度な長時間労働を許さない取組の強化」(64.0%)が最も高く、次いで「育児休業、介護休業、病気休業などの制度の充実」(56.7%)、「パワーハラスメント防止に関する研修の開催など、上司や同僚との良好な人間関係づくりの推進」(46.4%)と続く。

図28

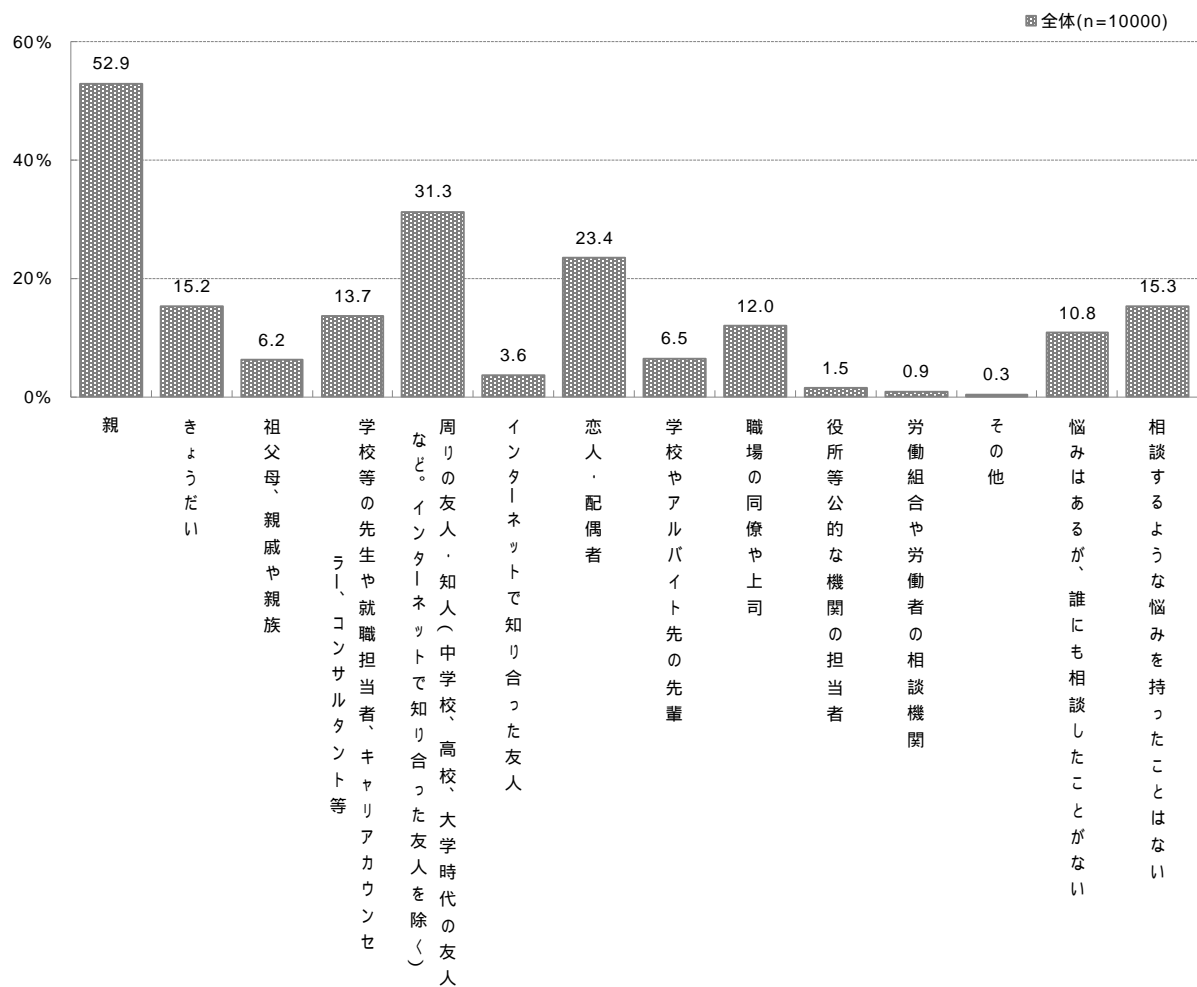


16 就労に関する相談先

(1) 働くことに関する相談先

働くことに関する相談先としては、「親」(52.9%)が最も高く、次いで「周りの友人・知人(中学校、高校、大学時代の友人など。インターネットで知り合った友人を除く)」(31.3%)、「恋人・配偶者」(23.4%)、「相談するような悩みを持ったことはない」(15.3%)と続く。

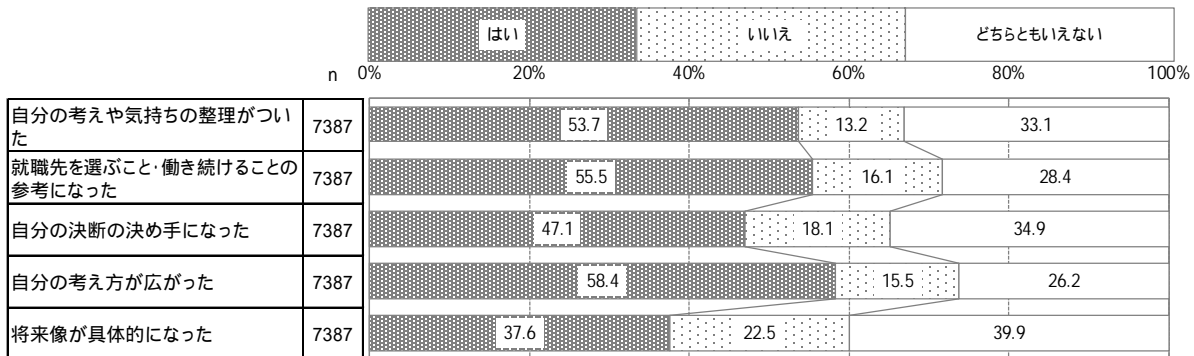
図29



(2) 相談の効果

相談の効果としては、“自分の考え方が広がった”において「はい」(58.4%)が最も高く、次いで“就職先を選ぶこと・働き続けることの参考になった(55.5%)”、“自分の考えや気持ちの整理がついた(53.7%)”、“自分の決断の決め手になった(47.1%)”、“将来像が具体的になった(37.6%)”と続く。

図30



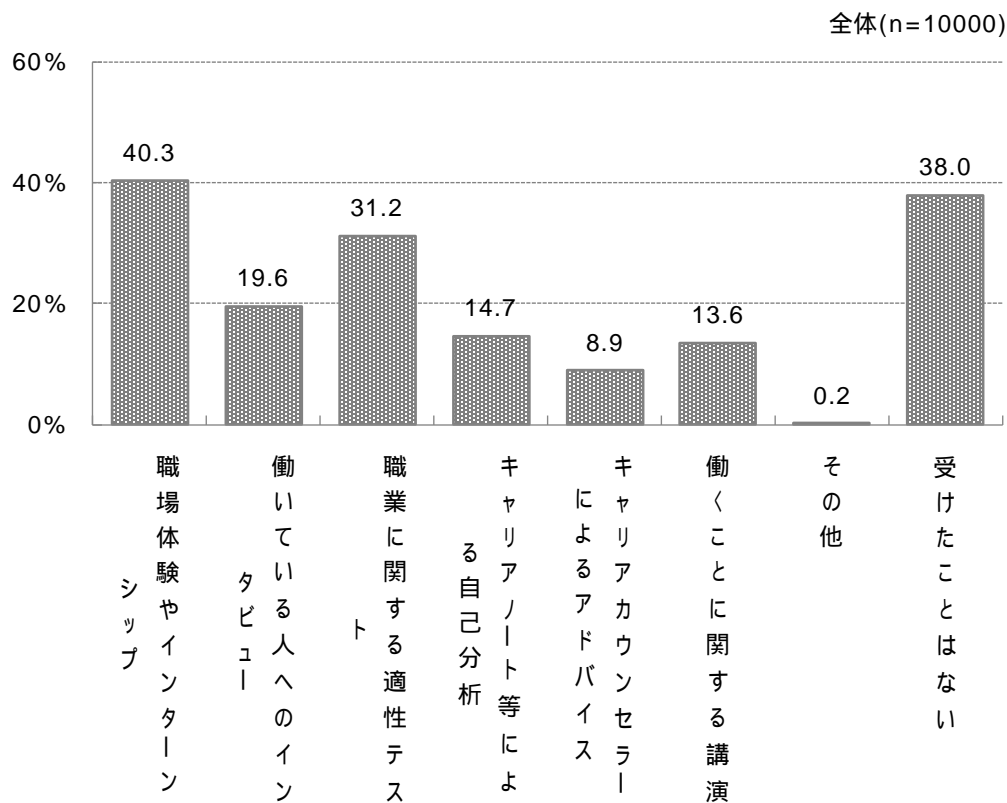
Q17 でいずれかの人に「働くこと」の悩み等を相談したことがある者のみ回答。

17 キャリア教育・職業教育

(1) キャリア教育・職業教育の経験

キャリア教育・職業教育の経験としては、「職場体験やインターンシップ」(40.3%)が最も高く、次いで「受けたことはない」(38.0%)、「職業に関する適性テスト」(31.2%)と続く。

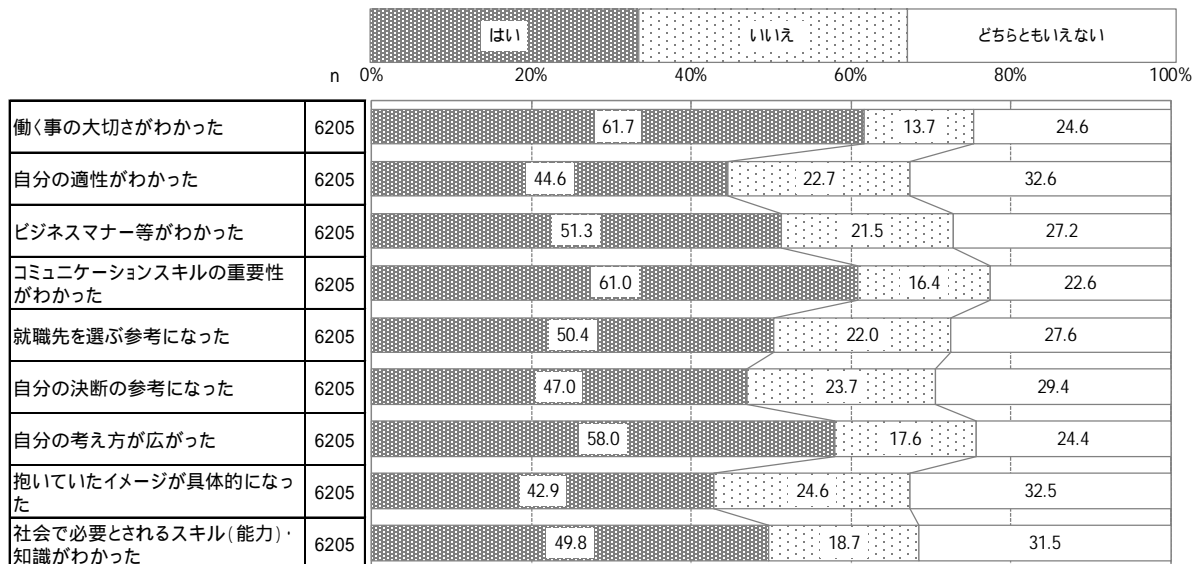
図31



(2) キャリア教育・職業教育の効果

キャリア教育・職業教育の効果としては、「働く事の大切さがわかった」において「はい」(61.7%)が最も高く、次いで「コミュニケーションスキルの重要性がわかった(61.0%)」、「自分の考え方が広がった(58.0%)」、「ビジネスマナー等がわかった(51.3%)」、「就職先を選ぶ参考になった(50.4%)」と続く。

図3 2

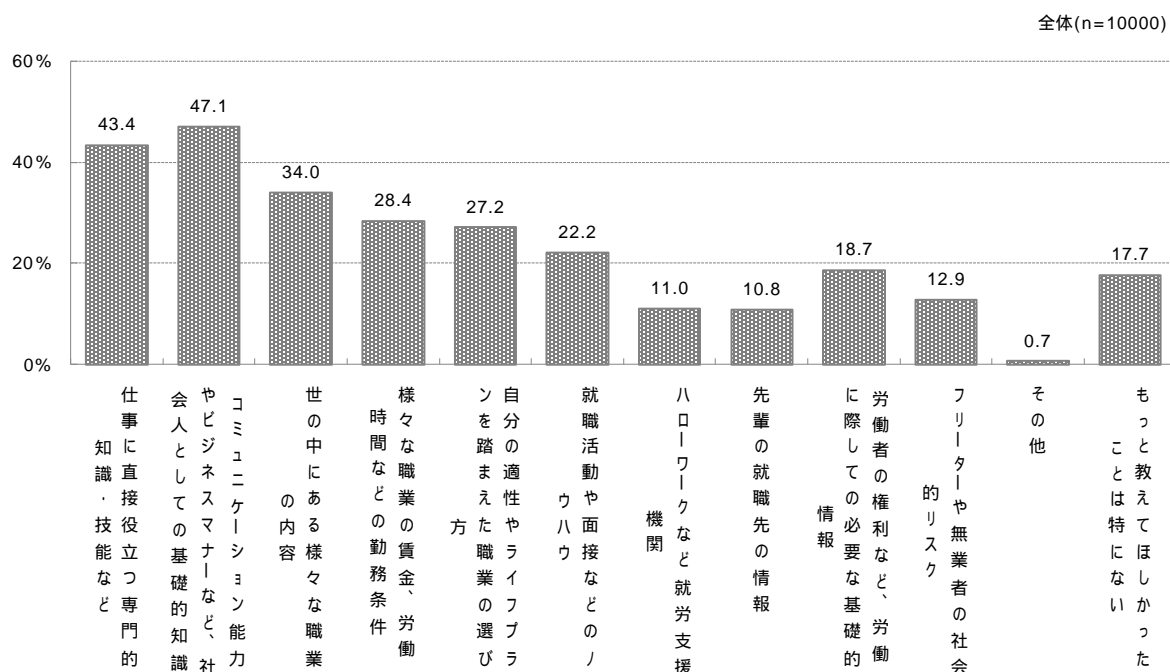


Q19 でいずれかの「キャリア教育・職業教育を受けた経験がある」と回答した者のみ回答

(3) 就労に関して教わりたかったこと

就労に関して教わりたかったこととしては、「コミュニケーション能力やビジネスマナーなど、社会人としての基礎的知識」(47.1%)が最も高く、次いで「仕事に直接役立つ専門的知識・技能など」(43.4%)、「世の中にある様々な職業の内容」(34.0%)と続く。

図3 3

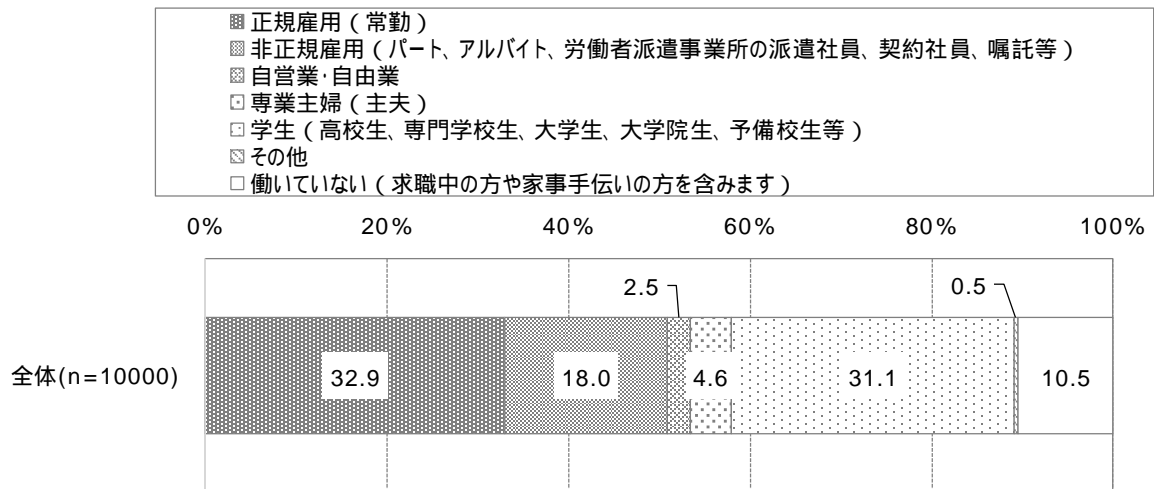


1 8 働き方の実態、就業、無業の理由

(1) 現在の雇用形態

現在の雇用形態としては、「正規雇用(常勤)」(32.9%)が最も高く、次いで「学生(高校生、専門学校生、大学生、大学院生、予備校生等)」(31.1%)、「非正規雇用(パート、アルバイト、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託等)」(18.0%)、「働いていない(求職中の方や家事手伝いの方を含みます)」(10.5%)、「専業主婦(主夫)」(4.6%)、「自営業・自由業」(2.5%)と続く。

図34

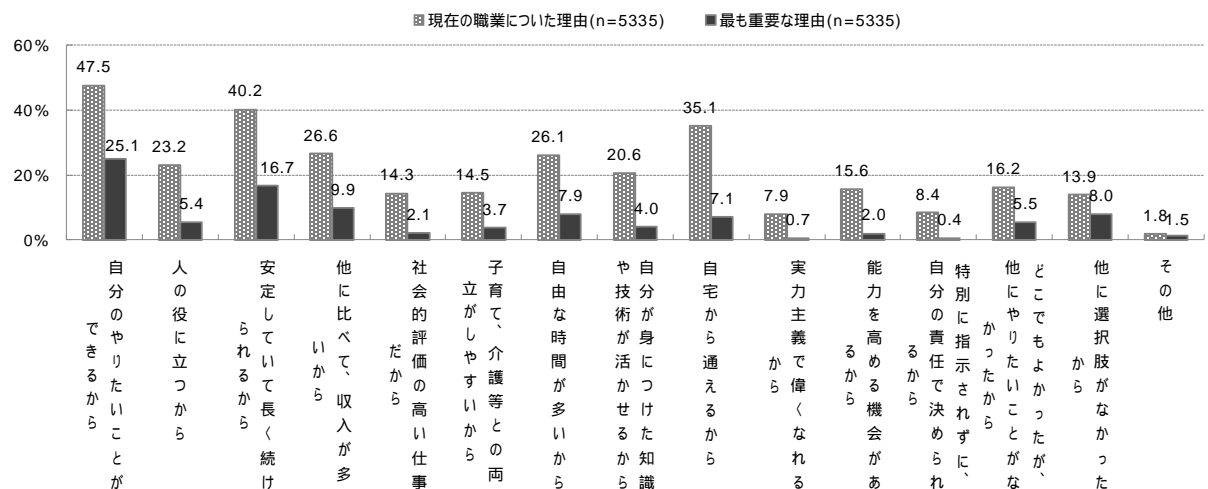


(2) 現在の職業について理由

現在の職業について理由として最も高いのは、「自分のやりたいことができるから」(47.5%)。次いで「安定していて長く続けられるから」(40.2%)、「自宅から通えるから」(35.1%)、「他に比べて、収入が多いから」(26.6%)、「自由な時間が多いから」(26.1%)と続く。

現在の職業について最も重要な理由として最も高いのは、「自分のやりたいことができるから」(25.1%)。次いで「安定していて長く続けられるから」(16.7%)、「他に比べて、収入が多いから」(9.9%)、「他に選択肢がなかったから」(8.0%)、「自由な時間が多いから」(7.9%)、「自宅から通えるから」(7.1%)と続く。

図35



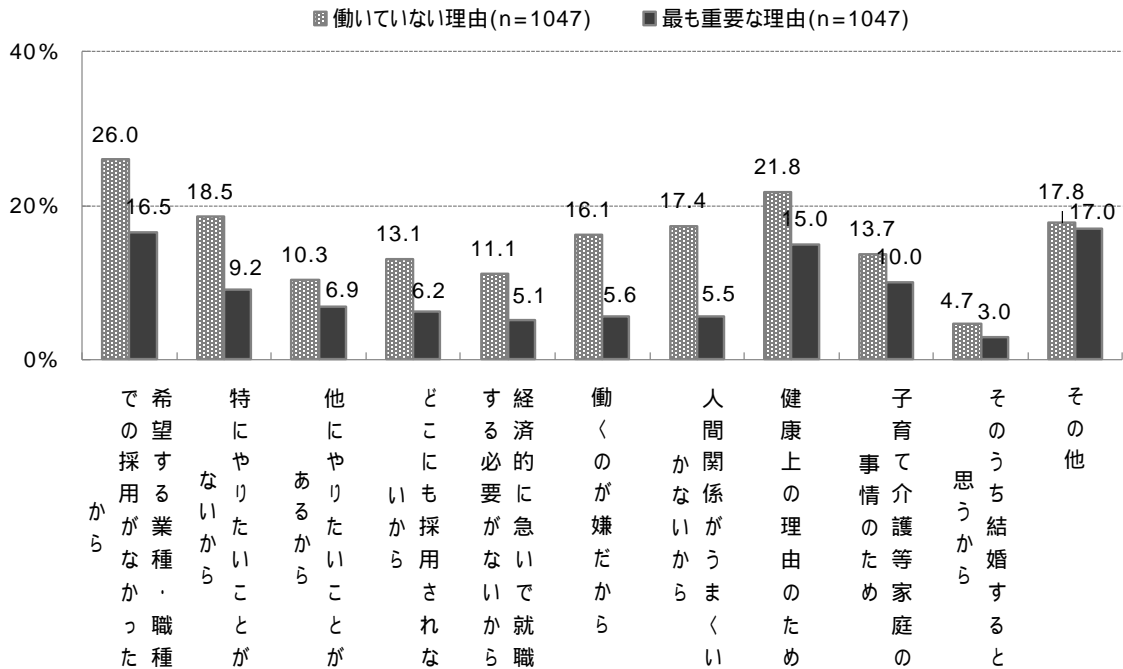
Q22で「正規雇用(常勤)」「非正規雇用」「自営業・自由業」を選択した者のみ回答。

(3) 現在働いていない理由

現在働いていない理由として最も高いのは、「希望する業種・職種での採用がなかったから」(26.0%)。次いで「健康上の理由のため」(21.8%)、「特にやりたいことがないから」(18.5%)、「人間関係がうまくいかないから」(17.4%)、「働くのが嫌だから」(16.1%)と続く。

現在働いていない最も重要な理由として最も高いのは、「希望する業種・職種での採用がなかったから」(16.5%)。次いで「健康上の理由のため」(15.0%)、「子育て介護等家庭の事情のため」(10.0%)と続く。

図36

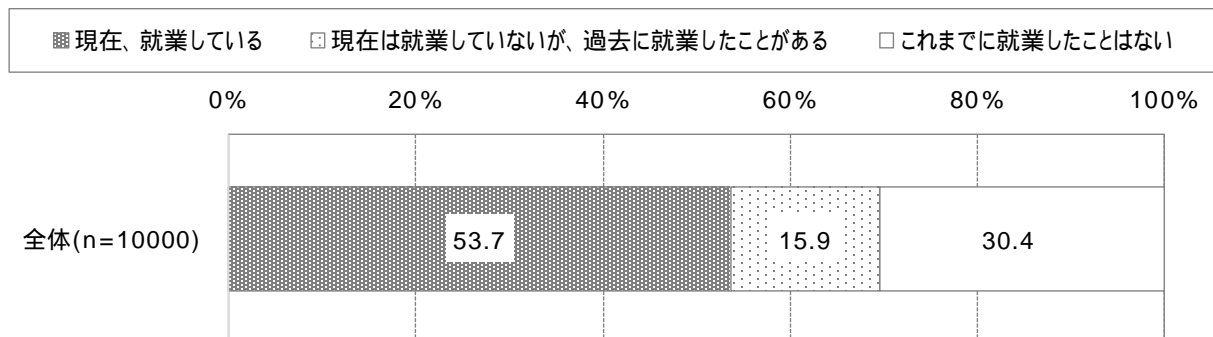


Q22で「正規雇用(常勤)」「非正規雇用」「自営業・自由業」を選択した者のみ回答。

(4) 就業経験

就業経験(パート、アルバイト等を含む。ただし、在学中のアルバイトを除く。)としては、「現在、就業している」(53.7%)が最も高く、次いで「これまでに就業したことはない」(30.4%)、「現在は就業していないが、過去に就業したことがある」(15.9%)と続く。

図37



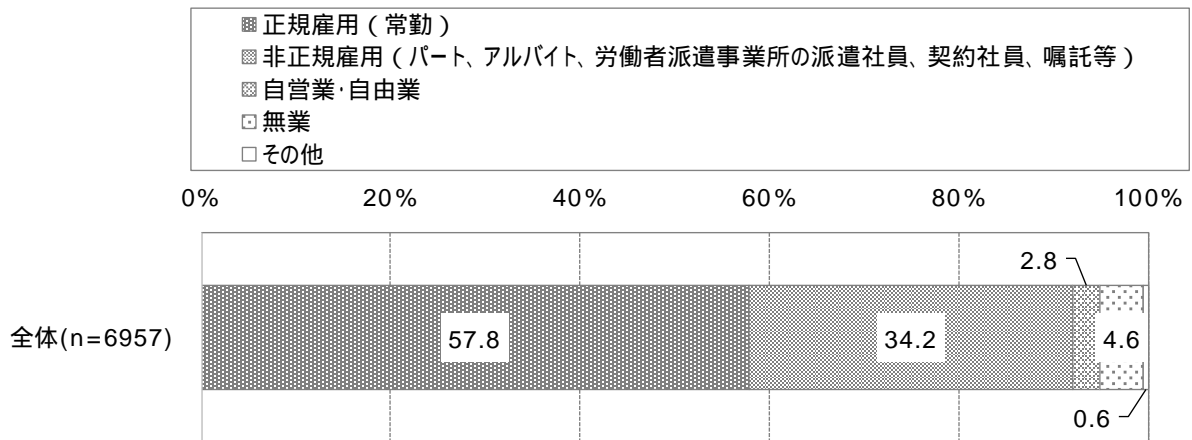
Q22で「専業主婦(主夫)」「学生(高校生、専門学校生、大学生、大学院生、予備校生等)」「その他」「働いていない(求職中の方や家事手伝いの方を含みます)」を選択した者のみ回答。

Q22で現在「正規雇用(常勤)」「非正規雇用」「自営業・自由業」を「現在、就業している」に加算。

(5) 初職の雇用形態

初職の雇用形態としては、「正規雇用(常勤)」(57.8%)が最も高く、次いで「非正規雇用(パート、アルバイト、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員、嘱託等)」(34.2%)、「無業」(4.6%)、「自営業・自由業」(2.8%)と続く。

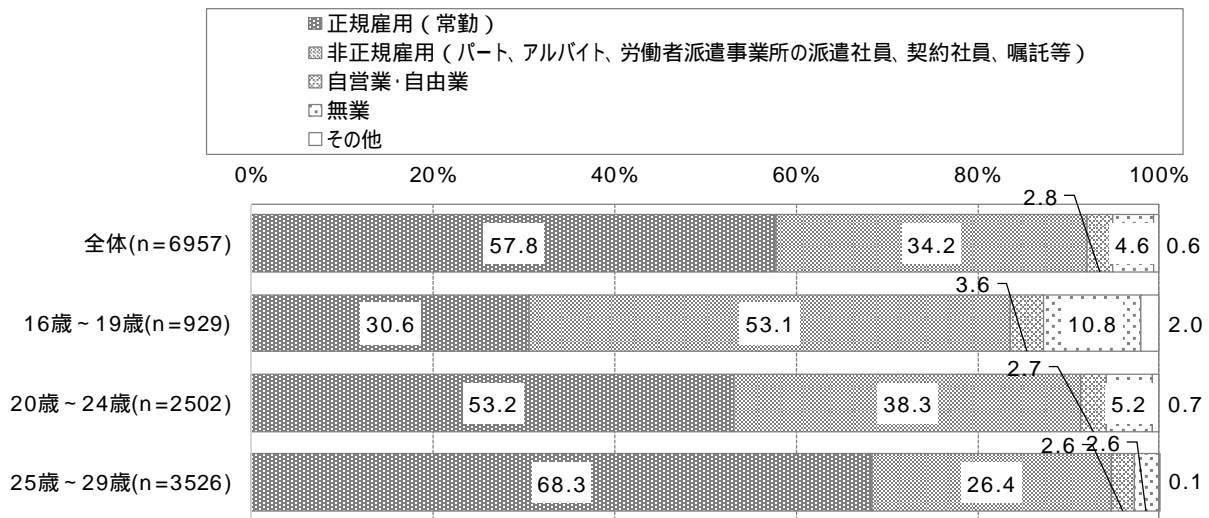
図38



Q22で「正規雇用(常勤)」、「非正規雇用」、「自営業・自由業」、またはQ25で「現在、就業している」、「現在は就業していないが、過去に就業したことがある」を選択した者のみ回答。

Q26.の質問を年齢階層別にみると、「25歳～29歳」では、「正規雇用」が68.3%、「非正規雇用」が26.4%であった。「16歳～19歳」では、「正規雇用」が30.6%であり、「非正規雇用」が53.1%であった。

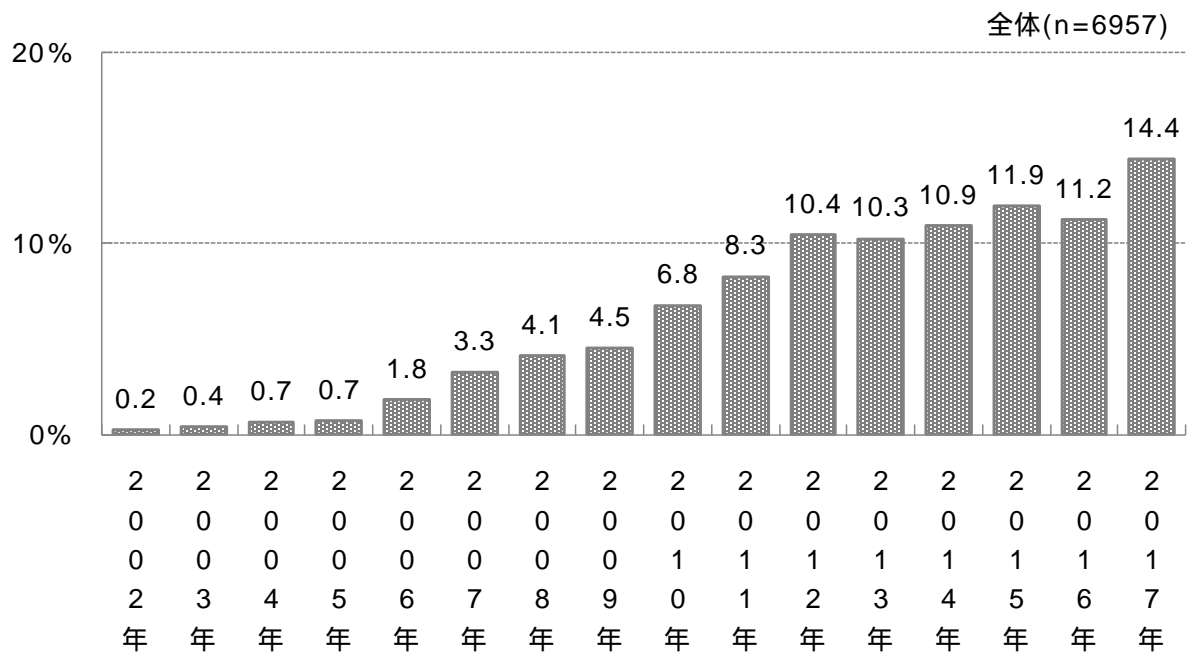
図39



(6) 初職の就業時期

初職の就業時期としては、「2017年」(14.4%)が最も高く、次いで「2015年」(11.9%)、「2016年」(11.2%)、「2014年」(10.9%)、「2012年」(10.4%)、「2013年」(10.3%)と続く。

図40

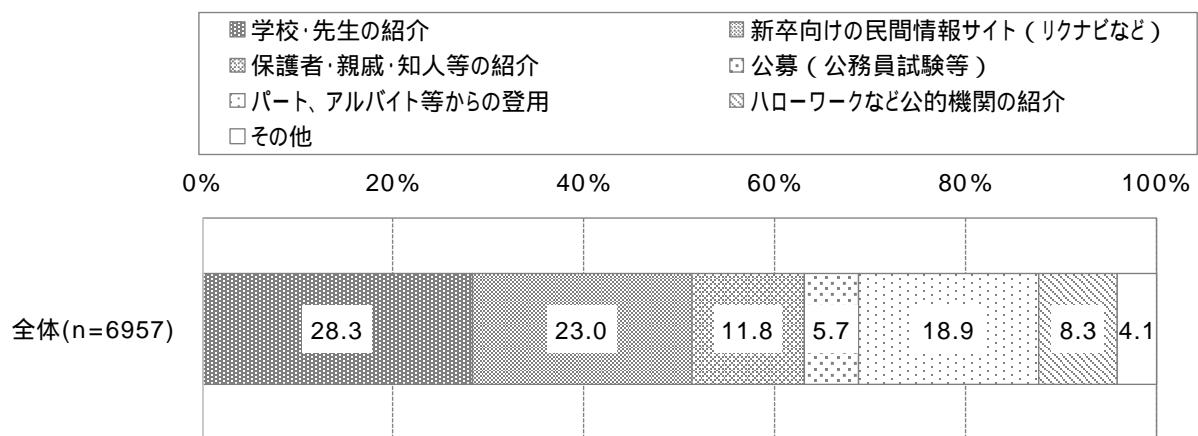


Q22で「正規雇用(常勤)」「非正規雇用」「自営業・自由業」、またはQ25で「現在、就業している」「現在は就業していないが、過去に就業したことがある」を選択した者のみ回答。

(7) 初職の就業のきっかけ

初職の就業のきっかけとしては、「学校・先生の紹介」(28.3%)が最も高く、次いで「新卒向けの民間情報サイト(リクナビなど)」(23.0%)、「パート、アルバイト等からの登用」(18.9%)、「保護者・親戚・知人等からの紹介」(11.8%)と続く。

図41

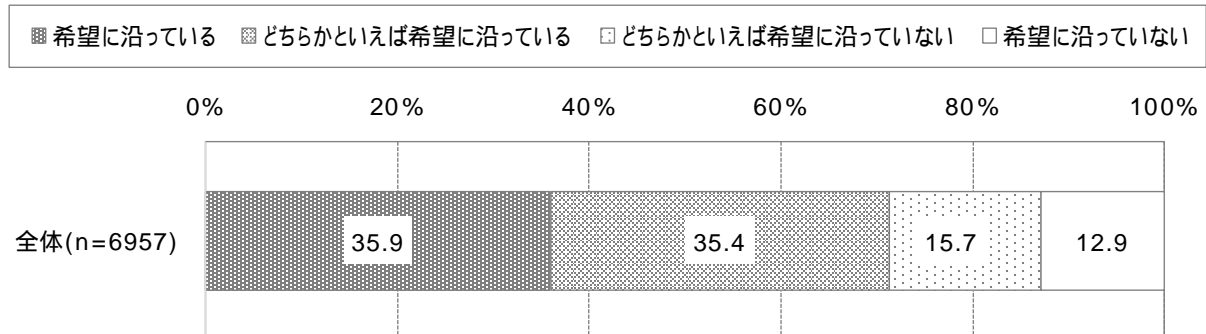


Q22で「正規雇用(常勤)」「非正規雇用」「自営業・自由業」、またはQ25で「現在、就業している」「現在は就業していないが、過去に就業したことがある」を選択した者のみ回答。

(8) 初職の雇用形態の希望度

初職の雇用形態の希望度は、「希望に沿っている」(35.9%)が最も高く、次いで「どちらかといえば希望に沿っている」(35.4%)、「どちらかといえば希望に沿っていない」(15.7%)、「希望に沿っていない」(12.9%)と続く。

図 4 2

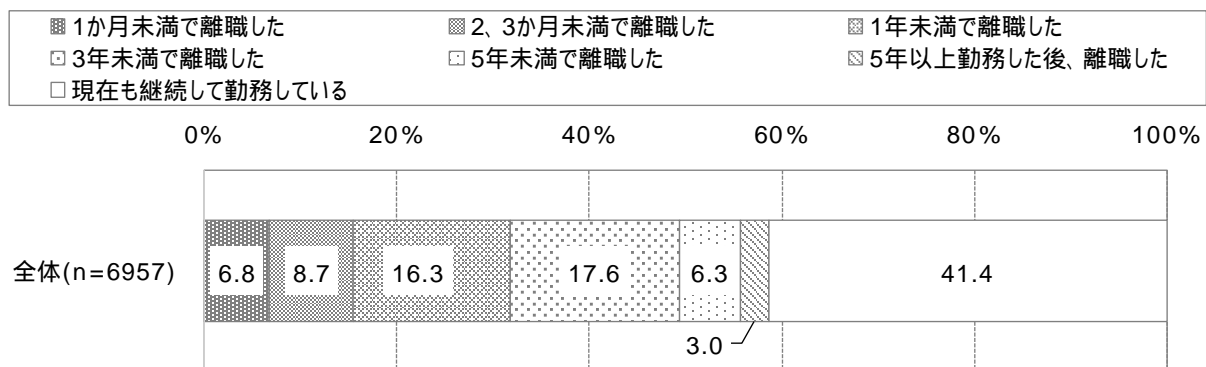


Q22 で「正規雇用(常勤)」「非正規雇用」「自営業・自由業」、または Q25 で「現在、就業している」「現在は就業していないが、過去に就業したことがある」を選択した者のみ回答。

(9) 初職の就業の継続状況

初職の就業の継続状況としては、「現在も継続して勤務している」(41.4%)が最も高く、次いで「3年未満で離職した」(17.6%)、「1年未満で離職した」(16.3%)、「2、3か月未満で離職した」(8.7%)、「1か月未満で離職した」(6.8%)、「5年未満で離職した」(6.3%)、「5年以上勤務した後、離職した」(3.0%)と続く。

図 4 3



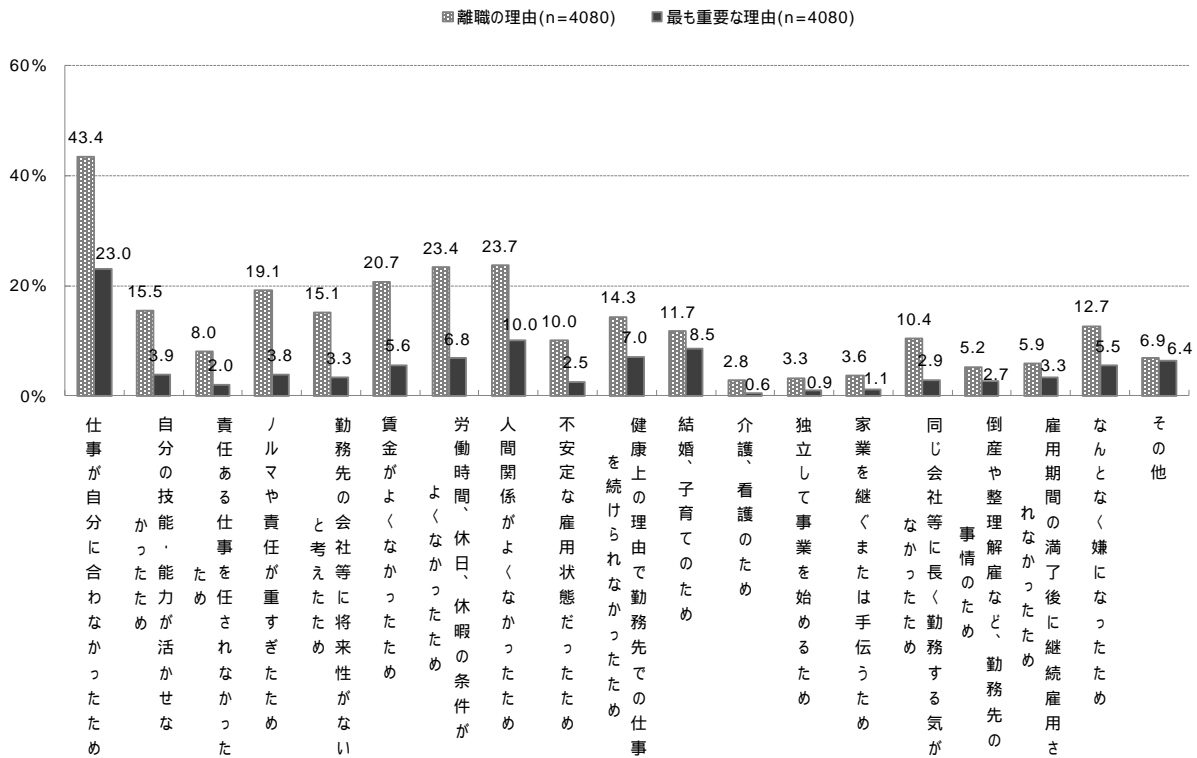
Q22 で「正規雇用(常勤)」「非正規雇用」「自営業・自由業」、または Q25 で「現在、就業している」「現在は就業していないが、過去に就業したことがある」を選択した者のみ回答。

(10) 初職の就業先の離職理由

初職の就業先の離職理由として最も高いのは、「仕事が自分に合わなかったため」(43.4%)。次いで「人間関係がよくなかったため」(23.7%)、「労働時間、休日、休暇の条件がよくなかったため」(23.4%)、「賃金がよくなかったため」(20.7%)と続く。

初職の就業先の離職の最も重要な理由として最も高いのは、「仕事が自分に合わなかったため」(23.0%)。次いで「人間関係がよくなかったため」(10.0%)、「結婚、子育てのため」(8.5%)、「健康上の理由で勤務先での仕事を続けられなかったため」(7.0%)と続く。

図 4 4



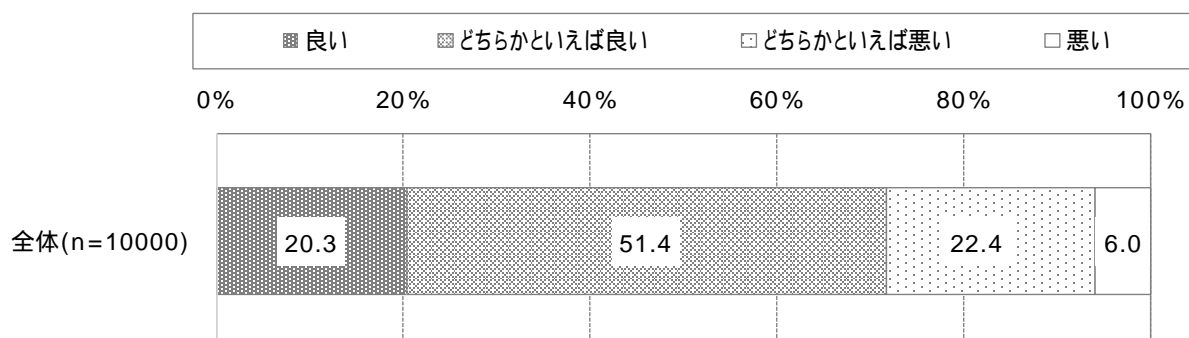
Q30 で最初の就職先を離職したと回答した者のみ回答。

19 現在の生活水準意識

(1) 現在の暮らし向き

現在の暮らし向きとしては、「どちらかといえば良い」(51.4%)が最も高く、次いで「どちらかといえば悪い」(22.4%)、「良い」(20.3%)、「悪い」(6.0%)と続く。

図45



(2) 現在の生活充実度

現在の生活充実度は、「どちらかといえば充実している」(48.2%)が最も高く、次いで「充実している」(23.5%)、「どちらかといえば充実していない」(19.2%)、「充実していない」(9.2%)と続く。

図46

